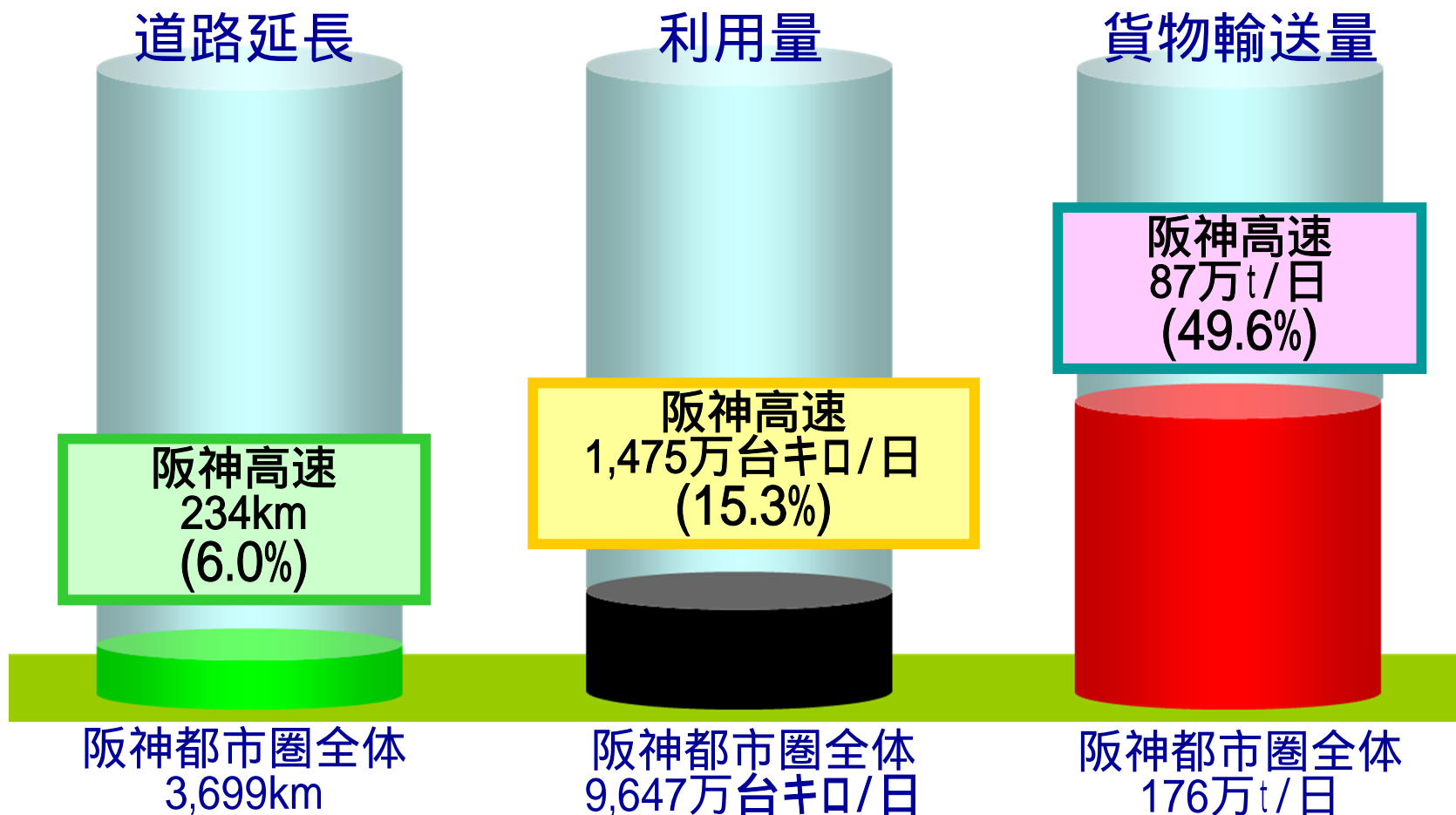


# 【資料1】都市高速道路サービスのあり方と 経営体制について



## 1. 阪神高速の役割

阪神都市圏全体のわずか6%の道路延長で、約50%の貨物輸送を分担



(阪神都市圏・大阪府・神戸市・尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・宝塚市・川西市・三田市)  
(道路延長・・・国道、府県道及び指定市の主要道路)

第22回阪神高速道路起終点調査(平成16年度)  
平成17年度道路交通センサスより

阪神高速を利用することで、所要時間が約1/2～1/3に短縮

阿波座～京橋間(日平均)	
一般道路	阪神高速道路
神戸線 77分	34分 → 43分短縮

福島～大阪空港間	
一般道路	阪神高速道路
上り 48分	24分 → 24分短縮
下り 41分	11分 → 30分短縮

阿波座～京橋間(日平均)	
一般道路	阪神高速道路
湾岸線 77分	32分 → 45分短縮



農人橋～水走間	
一般道路	阪神高速道路
上り 59分	23分 → 36分短縮
下り 49分	10分 → 39分短縮

阿波座～りんくうJCT.間	
一般道路	阪神高速道路
上り 103分	41分 → 62分短縮
下り 90分	38分 → 52分短縮

松原線 環状線分岐～松原間	
一般道路	阪神高速道路
上り 37分	17分 → 20分短縮
下り 33分	12分 → 21分短縮

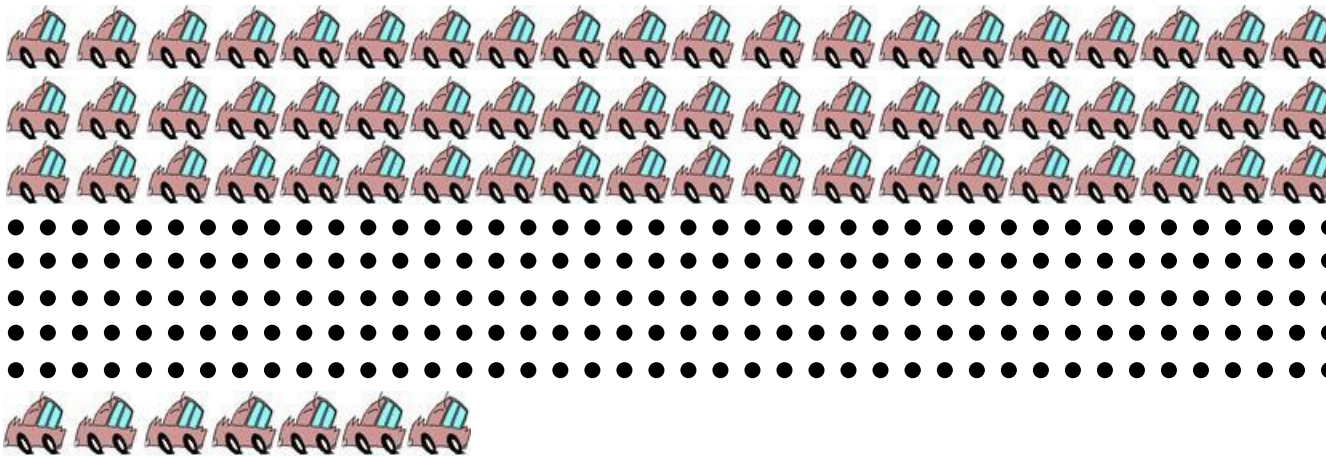
事故発生率は、一般道路の1/12とごくわずか

阪神高速



25件

一般道路



307件

1億台が1キロ走行する時に起こる事故の発生確率

## 2. 阪神高速の『都市高速道路サービス』とは？

### (1) 阪神高速がお客さまに提供する商品(サービス)

阪神高速がお客さまに提供する商品(サービス)の基本は、  
『安全・安心・快適な都市高速道路ネットワーク』の提供であると認識。

阪神高速では、企業理念として「先進の道路サービスへ」を掲げ、  
『阪神高速ビジョン～道路、地域の未来を拓く～』・『中期経営計画(2011～2013)』  
のもと、安全・安心・快適の追求について、各種取り組みを実施。

### (2) 安全・安心・快適の追求

安全・安心・快適な都市高速道路ネットワークを提供するため、使いやすいネットワークの整備、ハードの改良(伸縮継手取替や舗装打替などの年次計画による補修、施設対策、耐震補強等)、お客さまにとってわかりやすい料金制の実現に努めるとともに、都市高速道路を常時良好な状態に保つよう管理水準を定め、適正かつ効率的な維持、修繕等の管理を、以下のとおり実施。

また、お客さま満足(CS)の向上施策の着実な実施や、ドライバーに働きかけるソフト対策にも重点的に取り組み。

## 維持管理

高架橋を中心とした高密な都市高速道路ネットワークを、日平均約90万台のお客さまへ提供するため、道路構造物の維持管理が重要。

### 保全点検 (構造物・各種設備)

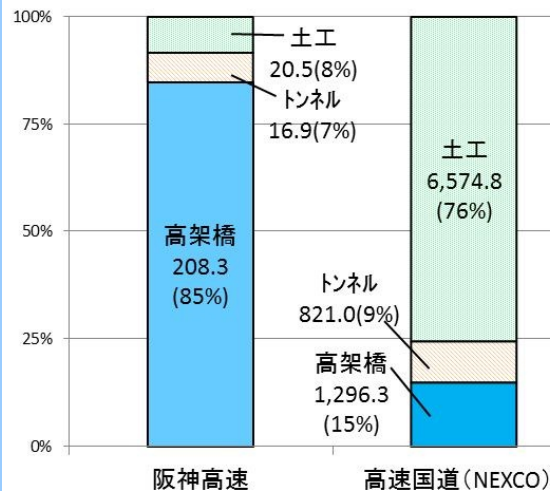
供用中の道路構造物・設備の劣化等状況を把握し、日常の維持管理を推進。

### 維持修繕 (構造物補修・清掃・緑地管理・雪氷対策等)

道路本体・PA・情報提供施設・照明等の維持補修や路面・排水設備等の清掃、高架下等にある緑地管理、路面凍結防止等の雪氷対策などを実施。



【道路構造別延長比率】



阪神高速:平成23年4月1日現在  
 高速国道(NEXCO):高速道路便覧2010より

【供用中路線の構造施設数量表】

(平成23年4月1日現在)

種別	単位	大阪地区	兵庫地区	京都地区	計	備考
営業延長	km	142.8	92.8	10.1	245.7	
入路	箇所	108	64	8	180	
出路	箇所	110	65	8	183	
橋脚	基	6,300	2,370	153	8,823	
橋桁	径間	6,965	2,604	196	9,743	
パーキングエリア	箇所	8	7	0	15	上下線毎に計上
標識	枚	6,577	3,255	200	10,032	案内・規制・警戒
道路照明灯	灯	14,135	14,151	981	29,267	PA、ライトアップ、緩衝帯は除く
道路情報板	基	296	153	17	466	
交通流監視カメラ	基	160	144	32	336	
料金所	箇所	83	50	7	140	

## 業務管理

### 料金収受

140箇所の料金所において、現金車から料金を徴収するとともに、ETC車の料金所通過時における不具合対応等を実施。

なお、京都地区では、無人料金所における機械収受機を遠隔で監視。

### 交通管理(交通管制、道路巡回、車両制限令違反車両の取締)

#### 1) 交通管制

車両検知器等により道路交通情報を収集し、交通管制センターで処理した上で、道路情報板、所要時間表示板等を通じてドライバーへ情報を提供。併せて、交通渋滞等による入路制限等の交通制御も実施。



#### 2) 道路巡回

定期的に24時間体制で道路を巡回し、交通管制センターと無線で連絡をとりながら、交通事故や道路損壊、落下物などの異常事態の早期発見に努め、走行の安全性を確保。



#### 3) 車両制限令違反車両の取締

車両制限令に違反して通行することによる安全障害や道路構造物の損傷要因となる車両に対し、当社単独もしくは警察と合同で違反車両の指導・取締を実施。



### 3. 都市高速道路サービスの提供体制(グループ経営体制)

都市高速道路の管理業務を、資産の健全性及び「安全・安心・快適」に不可欠な管理水準を確保しつつ、効率的に実施するため、グループ経営体制を構築し、子会社への発注は随意契約。その場合においても、子会社から発注する工事については、原則として一般競争を実施。

子会社とは明確な資本関係の構築等により、理念・ビジョン等を共有しグループガバナンスのもと連結決算で、経営を透明化。

#### (1) グループ経営体制



## (2) グループ経営のメリット

### 業務の効率化

(コスト縮減など)

- 業務内容・規模に応じた最適な組織体制を子会社において構築するとともに、人件費を縮減
- 親会社の機能の一部移管により、親会社組織のスリム化を実現
- 業務の発注ロット拡大や営業活動費が不要になることにより、諸経費率の圧縮を実現
- 子会社間の役割分担の柔軟な運用により更なる業務の効率化を実現

### 品質(管理水準)の確保

- 親会社との目標・使命感の共有や親会社のガバナンスにより、品質やサービスの確保・向上を徹底
- 安定的・継続的な業務の実施により構造物等の特性に習熟

### 技術・ノウハウの集約

- 技術・ノウハウの集約・蓄積により、業務の効率化や品質(管理水準)の確保に寄与
- グループにおける技術力・ノウハウの継承・蓄積・向上

### 緊急性・機動性

- 24時間365日、道路サービスの品質確保のため、緊急事案に効率的かつ適切に対応